

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	20 - 文学 - 5
-----------------	-------------

平成 20 年度配分 研究成果の概要

研究名	静岡文化芸術大学とフィリピン大学との学術交流				
配分を受けた特別研究費	文化政策学部長特別研究費				800 千円
研究者氏名 (代表者)	学部名 (研究科名)	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	文化政策学部	芸術文化学科	教授	梅若 猶彦	双方の視察交流を全体的にコーディネートする
共同研究者	文化政策学部	国際文化学科	教授	鈴木 元子	交換留学・短期英語研修の可能性を探る
	文化政策学部	文化政策学科	教授	米屋 武文	食文化交流について
	デザイン学部	メディア造形学科	教授	古田 祐司	デザインの分野での交流の可能性を探る
発表の方法 (予定で可)	1 紀要 『静岡文化芸術大学研究紀要』に報告書を発表する タイトル:「フィリピン大学との学術交流報告」(仮題)			号数	第 10 号 (2010 年 3 月発行) (頁～頁)
	2 学会等での発表			発表日	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法: ①第1回学内研究会 ②第2回学内研究会 ③第3回学内研究会 ④静岡文化芸術大学で特別講義 ⑤フィリピン大学で特別講義 ⑥H20年度第4回国際交流委員会で報告 ⑦H21年度第1回国際交流委員会で報告 ⑧国際文化学科の学科会議で報告			発表日	① H20年7月24日 ② H20年10月22日 ③ H20年12月10日 ④ H20年11月6日 ⑤ H21年3月9日 ⑥ H20年7月17日 ⑦ H21年4月30日 ⑧ H21年5月14日

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

本学における国際交流事業は年々活発になってきているが、まだ東南アジアにおいては、残念ながら学術交流協定校を有していない。

芸術文化学科の梅若教授は数年来、フィリピン大学で客員教授を務めてきたが、今回、この研究を通して、その個人レベルの交流を、大学レベルの交流にまで高めるためにどうしたら良いかについて、おもに国際交流委員の有志がチームを組むことで、考え、取り組んでいくことを目的とする。

(研究の実施方法等)

1. 文献(大学案内、シラバス、各種パンフレット、大学新聞等)の収集
2. 大学の視察調査、総長・学長・その他主だった方々との面談、施設見学
3. 交換講壇、すなわち双方の大学でそれぞれ「特別講義」を実施する
4. 大学周辺地域の視察(社会、文化、歴史等を知る)
5. 資料、講義要旨等をまとめて報告書を作成する
6. 報告書を次年度の「静岡文化芸術大学研究紀要」に投稿する
7. 国際交流委員会で報告をする
8. 学科会議等で本学教員にフィリピン大学について情報を提供する
9. 授業の講義等でフィリピンについて触れることで、学生たちの関心を引き出し、成果を還元する
10. 具体的な交流プログラムを策定する

(得られた成果等)

- ① フィリピン大学ウマリ准教授を本学に迎え、交流 (H20年5月)
- ② H20年度第4回国際交流委員会で報告 (H20年7月17日)
- ③ 第1回学内研究会 (H20年7月24日)
- ④ 第2回学内研究会 (H20年10月22日)
- ⑤ フィリピン大学の代表団(4名)が静岡文化芸術大学および浜松視察(H20年11月4日～6日)
- ⑥ UP代表団(4名)が静岡文化芸術大学で英語で「特別講義」を行う(H20年11月6日)
- ⑦ 第3回学内研究会 (H20年12月10日)
- ⑧ SUAC共同研究者(4名)でフィリピン大学を視察(H21年3月6日～11日)
- ⑨ SUAC教授4名(梅若、鈴木、米屋、古田)がフィリピン大学で英語で「特別講義」を行う (H21年3月9日)
- ⑩ フィリピン大学国際研究センター(UPCIS)のワークショップで梅若猶彦教授が能について講演・「羽衣」を舞う(H21年3月14日)
- ⑪ H21年度第1回国際交流委員会で報告 (H21年4月30日)
- ⑫ 国際文化学科の学科会議で報告 (H21年5月14日)